【医療機関向け】活用例

直近の薬剤情報を正確に把握した上で適切な治療管理ができた事例

情報提供元：大阪大学医学部附属病院/ 大阪府

年　齢	70歳代	性　別	男性	診療科	循環器内科	介入項目	処方量調整

事例詳細

改善要因　直近の薬剤情報を確認

経　緯

- 問診にて、他院を受診中で抗真菌薬の内服加療が行われていることを把握した。
- 抗真菌薬にはワルファリンとの相互作用が懸念される薬剤も存在し、患者からの問診では相互作用が問題ない抗真菌薬が処方されているとのことであったが、口頭での情報のため、PT-INR確認の受診間隔を短縮し影響の有無を確認する方針とした。
- 受診間隔を短縮した再診時に、マイナンバーカードによる情報提供に同意を得ており、直近の薬剤情報を閲覧したところ、投与されている抗真菌薬は相互作用が問題ないとされている抗真菌薬（テルビナフィン）であることを確認したが、PT-INRは治療域からは外れていた。
- 上記の経緯を踏まえ、他院での加療継続中は、PT-INR確認の受診間隔やワルファリン投与量の調整を行い、適切なPT-INR治療域の維持対応を行った。

※　普段からお薬手帳の持参や情報提供の同意を促し、直近の薬剤情報を診療に活用している。

直近の薬剤情報から患者の状況を正確に把握した上で、
PT-INRの検査や投与量の調整を行い、適切な治療を行うことができた。